

Kishinkyo Letter

一般財団法人 機械振興協会 会報

CONTENTS

【TOPICS】お探しの情報、専門図書館にあるかもしれません……p1-3

【インフォメーション】機械振興会館「健康管理サポート事業」が始まりました……p4
経済研究所事務所移転のお知らせ……p4

2025年秋号

No.21

TOPICS

お探しの情報、 専門図書館にあるかもしれません

「ディープライブラリー」とNDLサーチの連携で広がる検索の未来

2024年秋より、BICライブラリの所蔵資料が国立国会図書館サーチ(NDLサーチ)からでも検索できるようになりました。これは、機械振興協会が後援する専門図書館の蔵書横断検索サービス「ディープライブラリー」とNDLサーチとの連携¹⁾によるものです。運用開始からすでに1年が経つころですが、本号では、ますます便利になる専門図書館の蔵書検索について紹介します。

図書館へ行く、その前に

さて、図書館を利用する前にどんなことを調べますか。開館時間や休館日でしょうか。それとも最寄り駅や駐車場の有無でしょうか。読みたい本が所蔵されているか、どんな本が揃っているかなど、その図書館の資料をあらかじめ確認する人もいるかもしれません。書店やネットショップで在庫を調べられるように、図書館にも本や雑誌などの所蔵状況を検索できる蔵書検索システムがあります。このシステムはOPAC(Online Public Access Catalogの頭文字をとった名称で、読み方はオーパックまたはオパック)とも呼ばれ、利用案内や交通アクセスと同様にオンラインで公開されていることが多いです。BICライブラリのOPAC²⁾もパソコンやスマートフォンなどからアクセスでき、来館せずとも自宅や職場から検索可能です。しかし、そもそも「BICライブラリ」という図書

館を知らなければウェブサイトやOPACに辿りつくのは難しいでしょう。

「ディープライブラリー」で見つける

2015年にリリースされた「ディープライブラリー」は専門図書館を見つけることを目的に株式会社カーリルにより開発されました。



図1 「ディープライブラリー」 <https://dlib.jp/>

お探しの情報、専門図書館にあるかもしれません

「ディープライブラリー」とNDLサーチの連携で広がる検索の未来

トップページ(図1)にはシンプルに検索ボックスがひとつあるだけです。ここに探したいテーマのキーワードを入力すれば、1冊の本が見つかるだけでなく、そのテーマを扱う専門図書館の発見にもつながります。例えば「自動車」を検索すると、『自動車の百科事典』という本がヒットし、BICライブラリーのほか、トヨタ産業技術記念館(愛知県名古屋市)や工業所有権情報・研修館(東京都千代田区)にも所蔵されていることがわかります。さらにこの3館には他にも「自動車」関連資料があるだろうと推測できます。

日本国内に所在する専門図書館の正確な数は把握されていませんが、2025年9月現在の「ディープライブラリー」の検索対象館は131館にのぼります。このなかには個々の関心や調査・研究に適した専門図書館がきっとあるはずです。

ここで改めて、専門図書館とは何か、どのような資料を集めているのかを紹介します。BICライブラリーが「機械産業とビジネスの専門図書館」であるように、特定の分野に特化した図書館を専門図書館といいます。BICライブラリーの近隣にも、飛行機や宇宙産業に詳しい「航空図書館」、旅行や観光研究に役立つ「旅の図書館」、世界中の広告を集める「アドミュージアム東京ライブラリー」など多種多様な専門図書館が点在しています。

これらの専門図書館には、市町村立図書館などでは所蔵の少ない専門書や専門誌、業界新聞、市販されていない灰色文献など、ユニークな資料が揃っています。入手困難な情報は、時に貴重で価値の高いものです。専門図書館で働いていると、来館者の「探し求めている本をついに見つけた!」という嬉しい瞬間に立ち会える

ことがしばしばあります。さらに「ここにしかない資料」を教えられることもあります。だからこそ、専門図書館の蔵書がもっと簡単に発見できれば、より広くより多くの人に活用されるのではないかと私たちは考えています。

「NDLサーチ」で見つける

国立国会図書館には納本制度があり、国内で発行されたすべての出版物が収められています。2024年度の蔵書数は約4,811万点、もちろん日本最大の規模です。NDLサーチではこのすべてを検索できるだけでなく、都道府県立図書館や政令指定都市立図書館など、連携している全国の図書館の蔵書も探すことができます。さらに一部の専門図書館も連携館³⁾となっており、このたびここに「ディープライブラリー」が加わりました。

ここからは実際のNDLサーチ(図2)の画面を示しながら便利な検索方法を解説します。まずは、機械振興協会経済研究所が刊行するアニュアルレポート『日本の機械産業』を例に見ていきましょう。トップページの検索ボックスに「日本の機械産業」と入力し、その下のチェックボックス「国立国会図書館」と「全国の図書館」の両方をオンにして検索マークをクリックします(図3)。すると検索結果一覧が表示され、なかには「インターネットで読める」と示される資料も含まれています(図4)。そこから『日本の機械産業 2023』を選んで開くと、画面上部に「デジタルデータあり(BICライブラリー)」と「ディープライブラリー」の表記があり、そばには「すぐに読む」ボタンもあります(図5)。このボタンをクリックすればBICライブラリーのOPACに移動し、公開されているPDFをそのまま読むことができます(図6)。これまでBICライ



図2 NDLサーチ <https://ndlsearch.ndl.go.jp/>



図3 検索対象館の選択

ブラリのOPACからしか見つけられなかった公開PDFですが、NDLサーチを通じて広く検索・閲覧できるようになりました。

続いて、1989年に日本冷凍空調工業会から刊行された『創立40周年記念 40年の歩み』を探してみましょう。検索手順は先ほどと同じですが、結果画面の表示には違いがあります。この団体史は国立国会図書館には所蔵されておらず、「全国の図書館」の中でも所蔵が確認できるのは1館のみ（図7）。この1館がBICライブラリなのです。これまで所在が埋もれていた専門図書館の所蔵資料も、「ディープライブラリー」とNDLサーチとの連携によって容易に発見できるようになりました。

専門図書館をもっと身近に

2024年秋の連携では、BICライブラリのみが検索対象館となりスタートを切りました。今後は「ディープライブラリー」を通じて他の専門図書館も検索対象として順次追加されていく予定です。連携先が拡大すればするほど、より幅広い情報を得られるようになります。情

報収集の効率化はもちろんですが、連携によって豊かでユニークな資料群や深い専門知識が開かれ、専門図書館はもっと身近な存在となるでしょう。さらに新しい出会いや発見が、多くの人の調査や学びを一層支えるはずです。

NDLサーチでの検索によってBICライブラリを見つけたときには、利用方法などをお気軽にご連絡ください。他の専門図書館を見つけた際も、同様に直接お問い合わせされることをおすすめします。BICライブラリでは「ディープライブラリー」の使い方や専門図書館全般についてなどの相談も承っています。今後もこれまで以上に多くの方に役立つ図書館として、連携の充実と情報提供に努めてまいります。

BICライブラリ

<https://www.jspmi.or.jp/biclibrary/>



注（URLはすべて参照2025-09-26）

- 1) https://ndlsearch.ndl.go.jp/news/20241022_dlhb
- 2) <https://bicl.opac.jp/opac/top>
- 3) <https://ndlsearch.ndl.go.jp/help/target>



図4 『日本の機械産業』検索結果の一覧



図5 『日本の機械産業 2023』の詳細画面



図6 BICライブラリのOPAC



図7 『40年の歩み』の詳細画面

機械振興会館「健康管理サポート事業」が始まりました

2025年度より、機械振興協会では、機械振興会館のテナント団体・事業者の皆様を対象に、「健康管理サポート事業」を開始しました。今回は、本事業について、ご紹介いたします。なお、本記事は、経済産業省 労働保健統括医 小林祐一医師、および同省 労働保健医 岡田岳大医師の監修を受けております。

小規模事業所でも産業医のサポートを

働く上でのストレスや健康への影響は、どの職場にも存在します。業務の忙しさや人間関係に加え、役割の不明確さ、将来への不安、サポート不足などもストレス要因となり、そこに家庭や介護、子育ての悩みが重なることで、心や身体に不調をきたすことは誰にでも起こり得ます。

メンタルヘルス不調を感じた際には、かかりつけ医や心療内科医などに相談することが一般的ですが、業務との関連性や職場環境まで踏み込んだ助言を得ることは難しいのが現実です。一方で、事業者側は、職員の体調不良にどう対応すべきか悩む場面が少なくありません。特に、上司や人事担当者がメンタルケアの専門家ではない場合、適切な判断が難しいです。

このような状況で重要となるのが、職場の業務や環境を理解したうえで健康面の助言を行う「産業医」の存在です。労働安全衛生法では、従業員50人以上の事業所に産業医の選任が義務づけられていますが、それ未満の小規模事業所には選任義務がありません。また、産業医と契約するには手続きの煩雑さや費用負担が課題となっています。

早期発見と職場のサポートが大切

たとえ小規模事業所であっても、従業員の健康が損なわれる可能性があります。むしろ小規模であればその影響は大きくなります。そこで、機振協では、こうした課題を踏まえ、機械振興会館のテナントの小規模事業所の人事・労務担当の皆様が産業医のサポートを身近に活用できるように「健康管理サポート事業」を立ち上げました。参加料は規模に応じて決まり、個別の職員面談を行わなければ追加費用もかかりません。職員面談のほか、人事担当者としての対応や事業所の健康管理体制などについて経験豊富な産業医に相談が可能で、安心できる支援体制を提供できるようになりました。

職員の産業医への相談は、人事・労務担当者を通じて行います。

その際は、職員は匿名で相談することも可能です。初期段階で気づき、早期介入ができるため、不調の深刻化や重症化を防ぐことができます。

うつ病や適応障害は特別な人だけに起こるものではなく、誰にでも起こりうる「病気」です。適切な治療を受ければ回復し、復職も可能ですが、再発しやすい特徴があるため、復職後の職場の理解とサポートが不可欠です。

特に、管理職による「ラインによるケア」が鍵となります。日頃からの声かけや業務調整、本人の健康状態への気づき、私生活の変化への配慮など、管理職の関わり方が職員の不調予防と早期対応につながります。実際、不調の背景には業務量の変化やサポート不足が多く見られ、職場（管理職）の対応が職員の健康の維持に大きく影響します。

機振協では今後も、メンタルヘルスケアへの理解が職場に根づくよう、情報提供やセミナーなども行いながら、皆様とともによりよい健康支援体制の構築をめざしてまいります。

本事業に興味・関心のある方は、お気軽にお問合せください。

監修医師略歴



小林 祐一 医師 経済産業省 労働保健統括医

2003年より経済産業省労働保健統括医、職員の健康管理を担当。メンタルヘルス不調者の早期発見、早期対応、復職支援、健康診断及び事後措置、保健指導体制、ストレスチェック実施体制などを構築してきた。

民間企業、外郭団体を含めて、産業保健活動の実施体制の構築、健康経営の取り組みに専門家として積極的に関わっている。その他、デジタル庁労働保健統括医、原子力安全規制庁労働保健統括医、環境省健康管理医、JOGMEC統括産業医として、公務員、団体職員の健康管理を長期に担当している。

産業医科大学産業衛生教授、慶應義塾大学医学部非常勤講師、早稲田大学理工学術院非常勤講師
労働衛生コンサルタント、産業衛生専門医・指導医、社会医学系専門医・指導医



岡田 岳大 医師 経済産業省 労働保健医

2016年より厚生労働省医系技官として勤務。

2024年4月より経済産業省労働保健医、職員の健康管理を担当。統括医とともに健康施策の企画、立案、実行している。

その他、原子力安全規制庁労働保健医を担当している。
社会医学系専門医

経済研究所
事務所移転の
お知らせ

この度弊所は下記の通り会館内にて事務所を移転することとなりました。
何卒変わらぬご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

[移転先] 機械振興会館地下1階 (BICライブラリ隣) [移転日] 令和7年9月29日(月)



一般財団法人 機械振興協会
Japan Society for the Promotion of Machine Industry

編集・発行 一般財団法人 機械振興協会

〒105-0011 東京都港区芝公園3-5-8 TEL 03-3434-8224 FAX 03-3434-8003 <https://www.jspmi.or.jp/>